



2016年3月期 通期決算短信 補足説明資料

株式会社オプティム

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略等はいずれも作成時点で入手可能な情報を基にした予測であり、これらは経済環境、競合状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績および戦略は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料に記載されているマーケット情報などに関わる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

- 2016年3月期 決算レビュー
- 2017年3月期 業績見通し
- 2017年3月期 成長戦略



2016年3月期 決算レビュー

創業来16期連続となる過去最高売上高、5期連続増益を達成 2015年度の当初売上予測25億円から上振れ、26.2億円で着地

(単位：百万円)

	14年度 通期実績	15年度 通期計画	15年度 通期実績	実績 前年比
売上高	2,149	2,500	2,620	121.9%
営業利益	402	500	538	133.9%
経常利益	403	500	539	133.8%
純利益	243	327	289	119.0%



2016年度 成長戦略

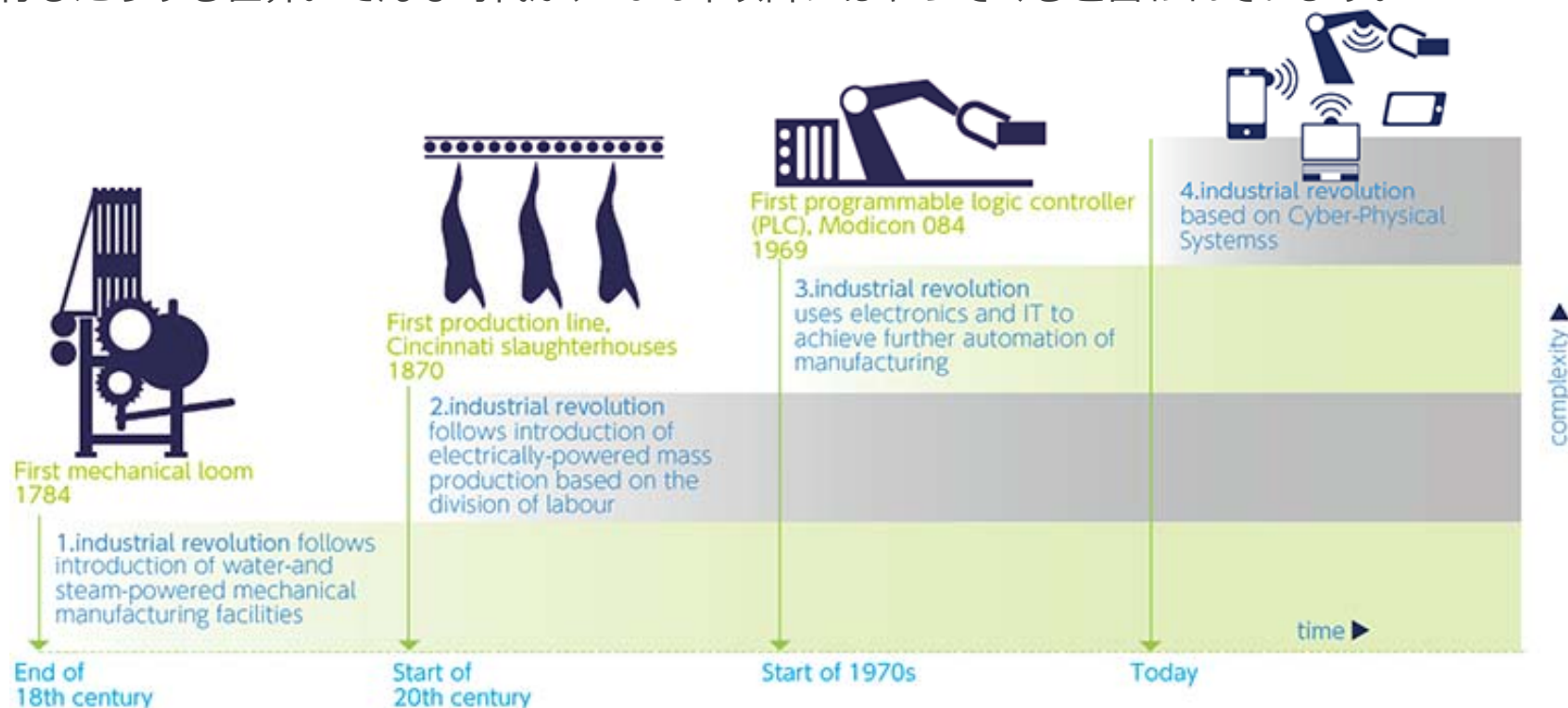


1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす。
2. IoT/AI/Robot分野への投資を強化し、第4次産業革命の中心となる企業となる。また、あらゆる産業と当社の持つIoT/AI/Robotテクノロジー・ノウハウを融合させる「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する。
3. 合併会社設立による営業力強化による販売拡大、新サービスの創造を推進する。

市場環境：第4次産業革命とは？

18世紀半ばから起こった「第1次産業革命」は、工場制機械工業により産業・社会を変えました。19世紀には、石油と電力の活用による「第2次産業革命」に至り、大量生産・大量輸送の幕明けとなりました。そして現代においては、ITの発展と生産の自動化などで産業構造が変化する「第3次産業革命」期と定義されています。

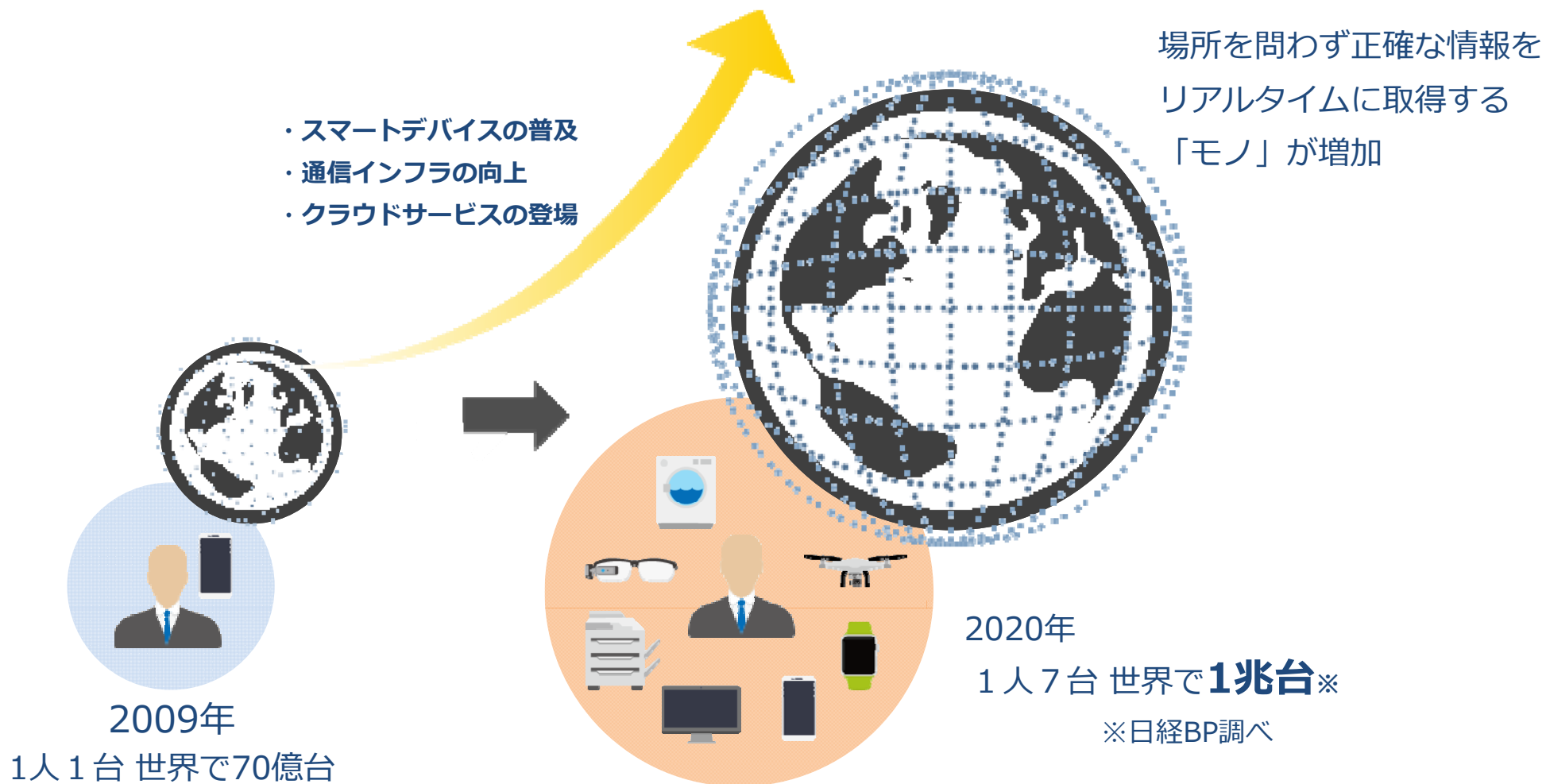
では、「第4次産業革命」とは？ その革命によってもたらされるのは、IoT（モノのインターネット）により、すべてのモノがインターネットでつながる世界。たとえば、工場内外のモノがネットワークでつながり、人工知能（AI）が生産を最適化させたり、需要と供給のバランスを加味して、効率的な生産・販売ルートを実行したりする世界。そんな時代が、2025年以降にはやってくると言われています。



(出典) Forschungsunion Wirtschaft und Wissenschaft, Acatech, "Securing the future of German manufacturing industry Recommendations for implementing the strategic initiative INDUSTRIE 4.0 Final report of the Industrie 4.0. Working Group"



IoT（モノのインターネット）の普及により、
さまざまな「モノ」がインターネットに接続されます。



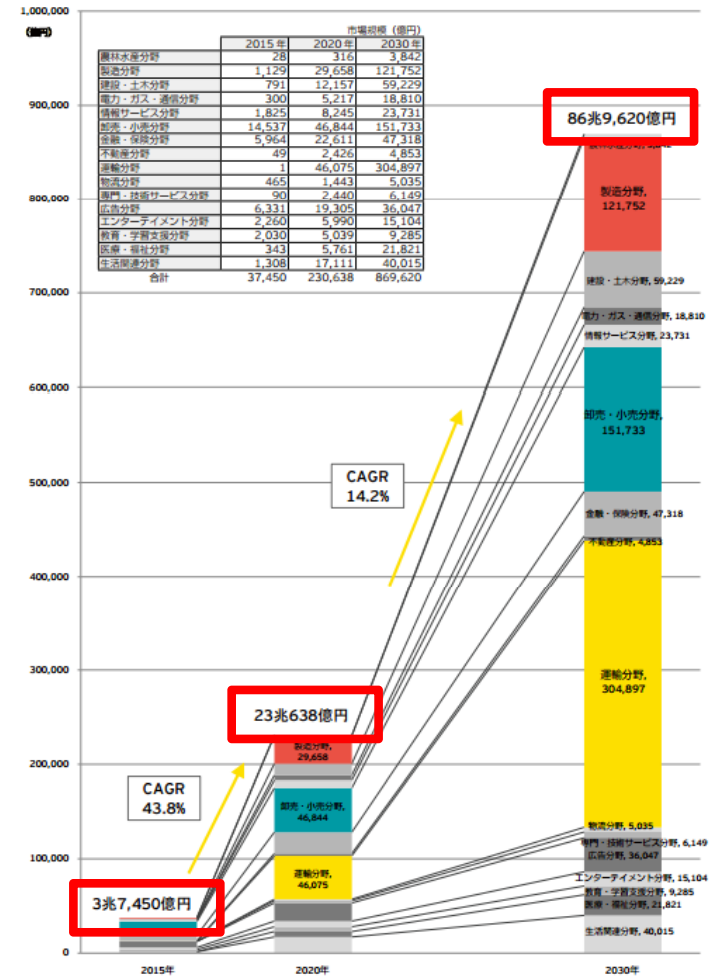


AI（人工知能）の関連市場は、2015年には3.7兆円、2020年には23.6兆円、2030年には86.9兆円にも及ぶとの調査結果もあり、実用化に向けた本格活用が進みつつあります。

第3次AIブームとも呼ばれる今回のブームでは、マシーンラーニング（機械学習）やディープラーニング（深層学習）による「特徴量表現」が可能となることで、今までに技術的な解決・応用が難しかったAI分野で大きな技術的ブレークスルーをおこすことが期待されています。

当社では既に画像解析AIの研究開発に着手しており、あらゆる産業と融合する「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築することに取り組んでいます。

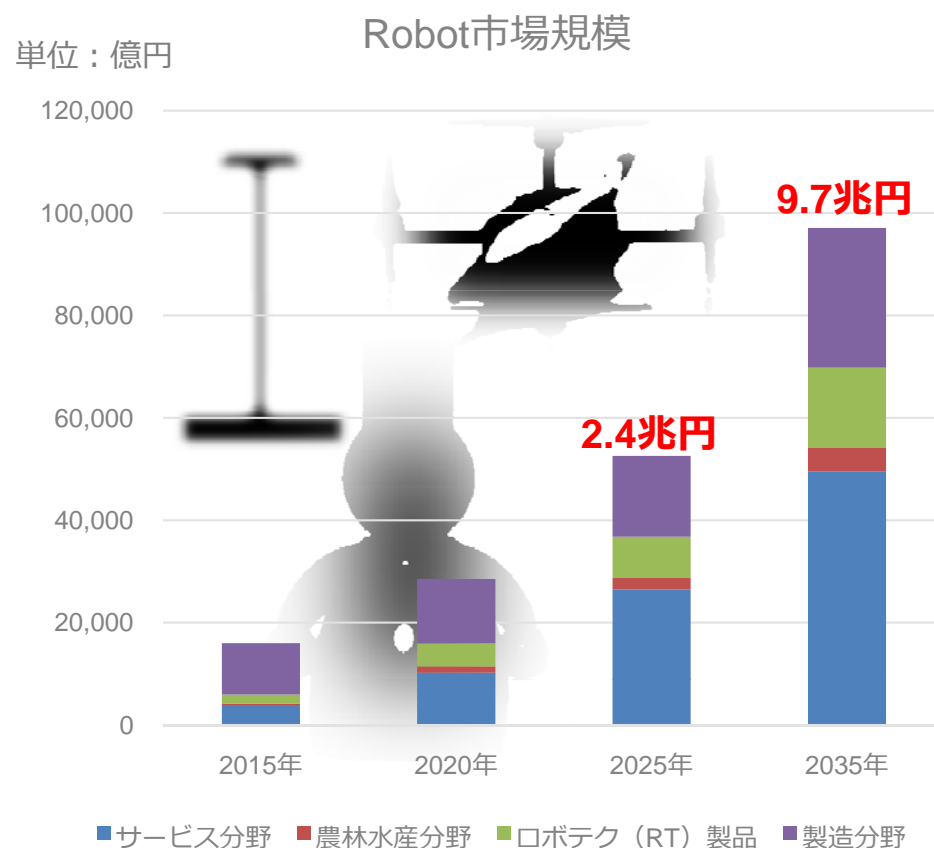
=> 2016年度は画像解析を含むAI分野に注力を行い、技術的なブレークスルーを起こし、新たなビジネス価値の創造を行います。



※EY総合研究所調べ

市場環境： Robot分野の市場規模

経済産業省の資料によると、Robot分野の市場規模は、2035年には9.7兆円に達するとしている。また、政府「ロボット新戦略」（2015年1月23日）では、ロボットの市場規模を現在の6,000億円から2020年には2兆4,000億円へと成長させることを目標としている。内訳をみると、製造業で1兆2,000億円、非製造業で1兆2,000億円とすることとしている。



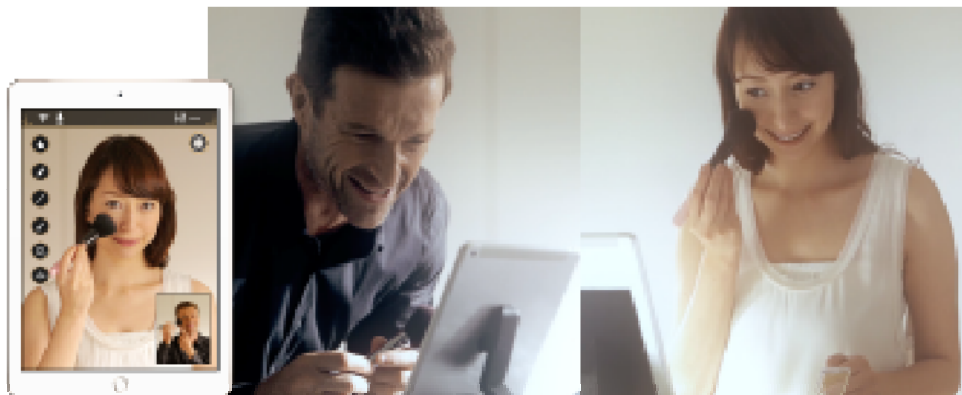
出典) 経済産業省「ロボット産業市場動向調査結果」を参考に当社にて作成

2015年度には既にあらゆる産業において、IoT/AIの新しいアプローチが始まっています。

建設（コマツとの業務提携）



コスメ（パリ開催の Cosmetic360出展）



農業（佐賀県・佐賀大学との 産学官連携協定）

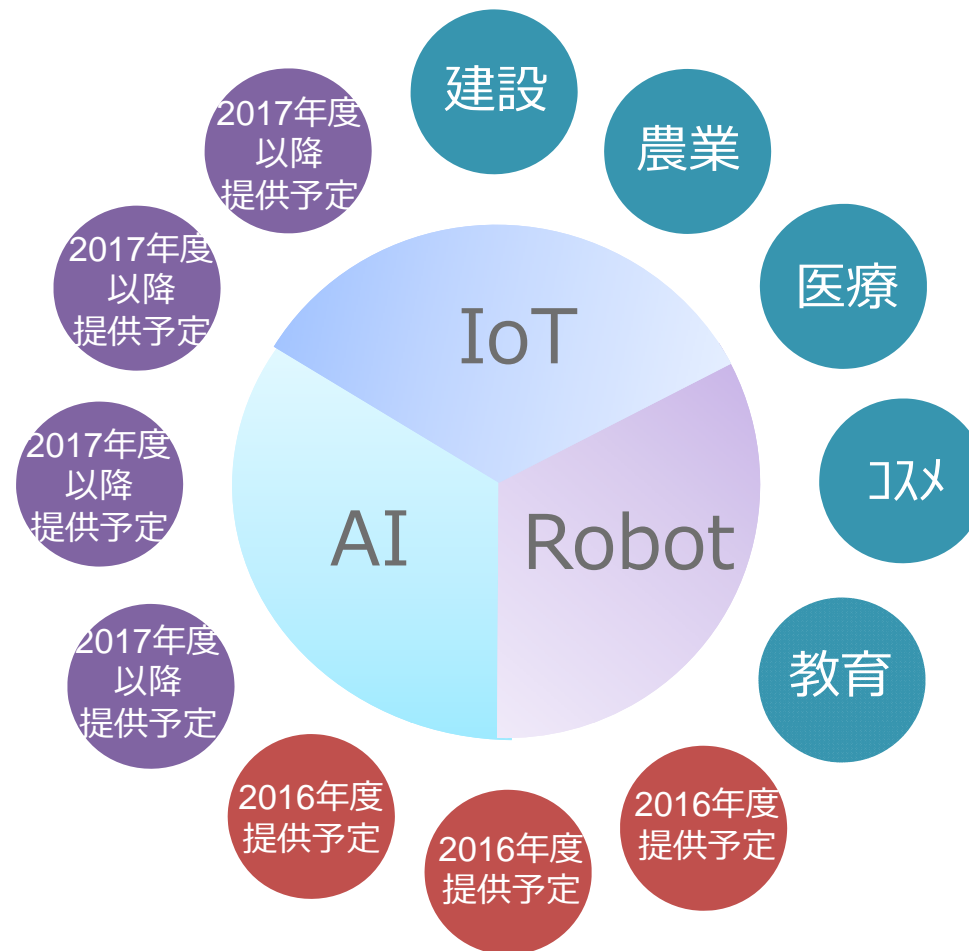


医療（MRTとの共同開発）





各業界・産業とIoT/AI/Robotを融合させる「〇〇×IT」により
ITの力で業界・産業基盤を再構築していきます。



遠隔医療の推進（政府方針）

- 経済財政運営と改革の基本方針2015
- 情報通信機器を用いた診療（いわゆる「遠隔診療」）について



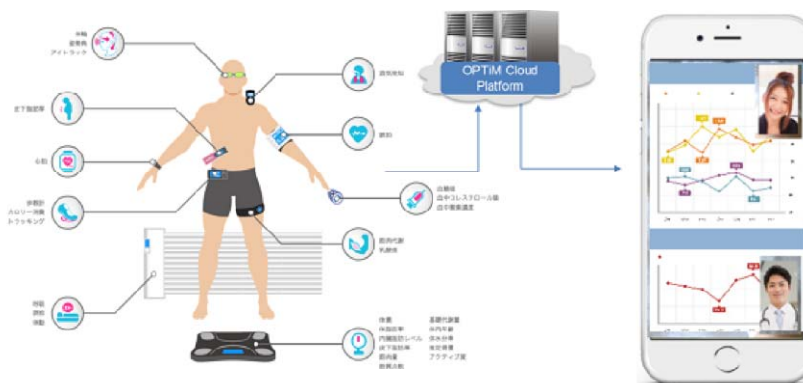
医療情報のプラットフォームを提供するMRTと国内初となる遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」の提供を開始

クラウド、IoTの活用で、時間も場所も選ばない医療へ

自宅に居ながら診察、健康診断、検査、薬の処方が受けられる



出典）日経デジタルヘルスが提唱するソーシャルホスピタルの概念図（イラスト：楠本礼子）



ヘルスケア機器、ウェアラブルデバイスとの連携

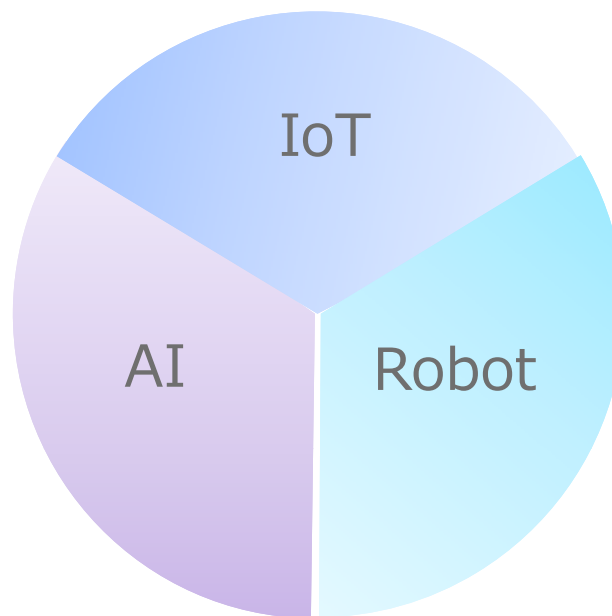
更に今後は、医療機関と連携し、「OPTiM Cloud IoT OS」、「Optimal Second Sight」の2つのプラットフォームを組み合わせ、メディカルIoTプラットフォームの構築を行う予定。メディカルAIサービス、メディカルRobotサービスなどを用いて、遠隔医療の高度化を行い、遠隔医療の推進を行なっていきます。

メディカルIoTプラットフォーム

今までインターネットに接続されてこなかった医療機器や医療データを接続することで、あらゆる医療に関連する課題を解決することを目指す

メディカルAIサービス

検査データ、画像データをAIにより解析し、今まで専門家でしか発見することのできなかった、症状と病理の相関性を自動的に発見することを目指す



メディカルRobotサービス

IoTやAIにより得られた知見から、Robotを活用して物理的な医療支援を行うことを目指す

2015年度に発表した、OPTiM Cloud IoT OS上で動作するAIを用いて、様々な業界への展開を行なっています。

 OPTiM CLOUD IoT OS

機械学習

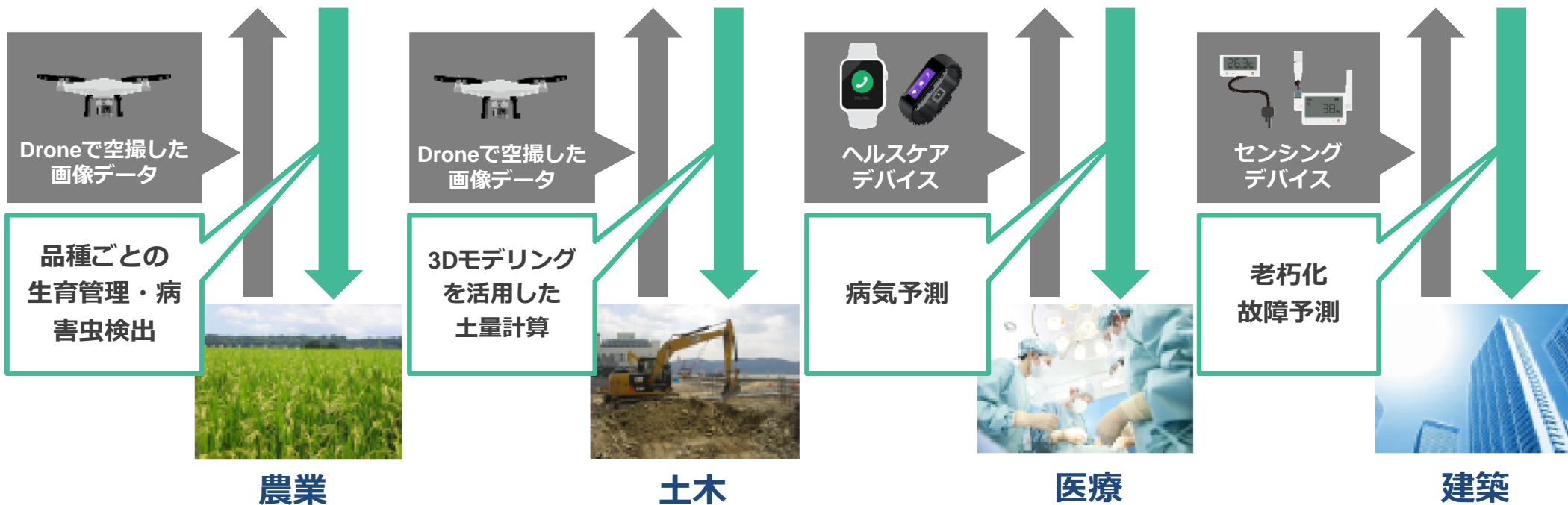
ディープ
ラーニング

画像解析

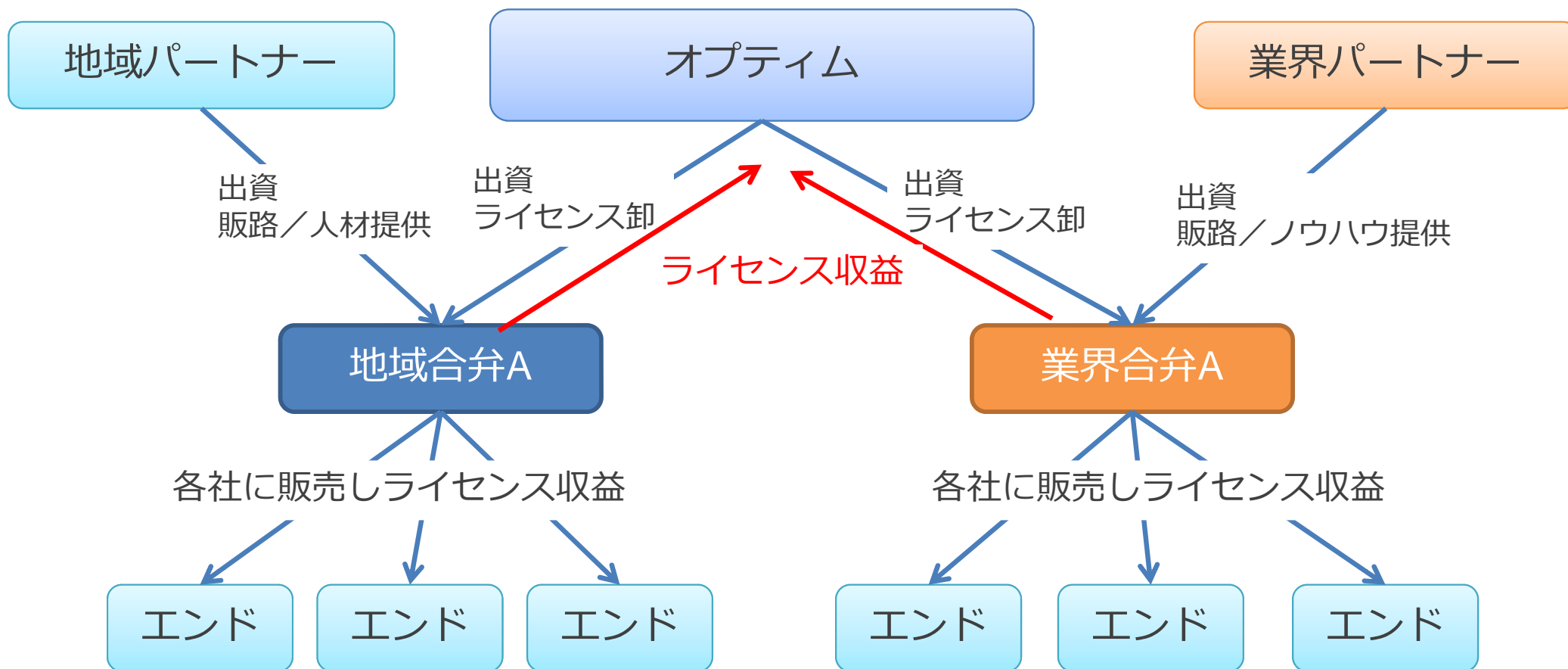
顔認識

音声解析

AI (Artificial Intelligence)



地域パートナー、業界パートナーとの合併会社を通じて、当社のライセンス（サービス/技術）を提供していきます。販売の拡大、新たなサービスの提供を行います。





2017年3月期 業績見通し



OPTiM Cloud IoT OSで
国内デファクトスタンダード獲得を行うための
集中投資を行い
第4次産業革命において中心的な役割を果たす
企業となるための1年とする



(単位：百万円)

勘定科目	2015年度 実績	2016年度 予想	前年比
売上高	2,620	3,200	122.1%
営業利益	538	640	118.9%
経常利益	539	640	118.5%
純利益	289	434	150.0%

- 2017年3月期の業績は、創業来17期連続となる過去最高売上高、6期連続増益を目指す。既存サービスの安定した成長による、売上高32億円（前年比122%）、利益6.4億円（ROE20%）は達成可能な見通し。
- 第4次産業革命に向け、OPTiM Cloud IoT OSで国内デファクトスタンダード獲得し第4次産業革命をリードする企業を目指す。そのためにIoT/AI/Robot分野に集中投資を行い、基盤を整える1年とする。
- 売上高、利益ともに新規サービスの受注により拡大の可能性を残す。なお、計画値と乖離が生じた場合には、速やかに開示する。
- ただし、第4次産業革命に向けた事業展開を行う中、更なる事業機会を発見した場合には、計画値にとらわれず大型な投資も行い、速やかに開示する。

OPTiM

www.optim.co.jp

OPTiM

Copyright © 2016 OPTiM Co. All Rights Reserved.